

【高等学校部会】

大阪府 提案「ICTの導入で生徒たちの学びはどのように変化するのか」

提案 近畿大学附属高等学校教諭 乾 武司先生
司会 大阪府立箕面高等学校教諭 森田琢也先生
記録 守口市立庭窪中学校教諭 廣部京子先生

＜乾先生の取り組み＞

○現在の学校の状況

- ・2013年度新入生からiPadを順次導入 家にも持って帰って使用
一人一台使用 約4,000台使用（中学生850人、高等学校3,000人、教職員200人）
- ・費用は保護者負担・学校で一括購入、教科書や副教材と同じ扱い
- ・ID・パスワードは学校で設定、充電・修理は自己負担
- ・教室は、プロジェクターとホワイトボード、アップルTVが標準装備
- ・Wi-Fiは、教室だけでなく、食堂やグラウンドにも整備
- ・生徒たちの自由な利・活用による学びの多様化
(以前は、電子黒板・書画カメラ・プロジェクターなし、携帯電話不可、情報の授業以外でのインターネット不可、板書による一斉授業は100年前と同じスタイルだった)

○紙資料のデジタル化・データベース化、教材のマルチメディア化

- ・「Cyber Campus」ソフトで大量の教材を無くすることなく管理できる。
- ・ノート・鉛筆・iPadがあればどこでも普通に学習できる環境を作ることができる。
→課題:デジタル教科書は教科書として認められていないため、紙の教科書と二重に購入しなければならない。
- ・保護者もIDを持っていて学校からの連絡も、スマホ・PCからの視聴で行う

○生徒の書いたものをすぐに文集にして共有できるため、読まれるための文章を書くことがルーティーン化

○模範解答や解説、授業ノートも配信

- ・板書のPDF化、板書を書く時間の節約
- ・YouTubeも家で見て予習
- ・iBookで教材の作成、アプリも充実、アップルストア
- ・ネットで調べて、無い資料は図書室へ メディアの特徴に気付き、目的別に利用できる力が付く

○デジタル教科書はシンプルに

- ・先生が選んで追加するのがよい

○ICT導入によって教授法が多様化

○学校行事を生徒主体にしてPBL（問題解決学習）にしてしまう

- ・体育祭、文化祭、飯ごう炊さん、説明会

○近大が使用している公式ポータル

- ・Cyber Campus タグ付け指導、メッセージ、
モラル指導 あるのが当たり前のインフラの使い方指導
- ・iTunes（無料）
- ・ポータルの活用
授業動画やプリント、ノートも自由に送ることができる。反転授業も可。
受動的な学習なら学校に出てこなくてもできる。

○これからの学校について

- ・学問の場であるはずの学校が最も知識にアクセスしにくい環境だった。
- ・質のよいe-learning教材が手軽に手に入る現在、e-learningのカリスマ先生に現場の先生は勝てないのか？
学校の存在意義とは？
- ・教師と生徒の利用できる知識量に差はない。教室でなければできないこと、みんながいないとできないことを実現できる学校に。
- ・学びの成果は多彩なアウトプットで、授業中に生徒が使う動詞を増やす。デジタルに任せるところはとことん任せて、教師は良質のアナログを提供する。

<質疑・応答>

Q. 経験の無い生徒も使えるようになるか？

A. すぐに慣れる。生徒同士で教え合う。

Q. 評価は？

A. ルーブリック評価、観点別で相互評価、ペーパーテストで7割、授業評価は3割。
評価については今後の課題。

Q. 教職員間の情報共有は？

A. 学年会、コース別、担任団など、そのクラスを6～7グループに分けて
全面的に賛成の教職員4～5人ぐらいから始めて、楽しそうにやっている姿を見たり、授業ペースの速さを
知ったりして他の教職員に広まる。

Q. 保護者の負担は？

A. iPad64Giga が 57,000 円 + α で 80,000 円ほど。学費の徴収時期を工夫することで保護者負担を年間で調整
している。